

勇気

R6.11.12 発行
校長：種吉 信二

選挙を通して考えたこと

10月27日に今後の日本の政治の在り方を決める大切な衆議院議員の総選挙が開催されました。今回の選挙の争点は「改正政治資金規正法」「政策活動費」「物価高の現状」「金融政策」「少子化対策」「防衛力強化・防衛増税」「憲法改正」「緊急事態条項」「女性・女系天皇」「選択的夫婦別姓」などでした。どれも現代の日本が抱える重要な課題ばかりです。しかしながら、本県における平均投票率は53%台で戦後3番目に低さだったと聞きます。これまでも投票率は低下の一途をたどってきましたが、民主政治にとってさらには義務教育にとってこのことは大変憂慮すべき事態です。特に、若者の投票率の低さは深刻な状態です。

学校教育法に示されている義務教育の目的は「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」です。公職選挙における投票率の低さには、様々な理由があると思いますが、自分の力で世の中を変えられるといった意識が有権者に低いことがその一因と考えられます。

本校は今年度も「自律」「調整」「創造」する活動を通して、「しなやかに考え、あきらめずに挑戦する生徒」の育成を目指しています。このことは、問題を自分のこととしてとらえ、課題解決に真剣に向き合う態度の育成につながるものと信じています。生徒が18歳になって選挙に参画する機会を得た時には、よりよい社会にするために積極的に参政権を行使してほしいと強く願います。

被団協 ノーベル平和賞受賞

68年間にわたり被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会（被団協）のノーベル平和賞受賞報道がありました。核兵器の開発や保有を法的に禁止する核兵器禁止条約の交渉会議で、300万人の署名を集め条約の採択を後押しし、その後はすべての国が条約に参加するよう1,370万人余りの署名を国連へ提出するなどの平和活動が認められ、今回受賞することとなったようです。

長崎市の小中学校は平和教育を教育課程全般に位置付けてきました。毎年、8月9日の「長崎

平和の日」には原爆犠牲者の慰霊と原爆被爆の実相を継承するための平和集会を開催しています。被団協のノーベル平和賞受賞は平和活動のゴールではありませんが、核兵器の廃絶を通して世界の平和を実現しよう努力している人々に希望と勇気を与えるものです。これからも戦争のない平和な世界を目指して努力を続けていかなければならないと胸に刻む機会となりました。

おすすめの本 (Part9)

中学生へのおすすめの本を先生方に紹介してもらいました。今回は 先生です。

本の名前	作者名	おすすめポイント
はたらく細胞	清水 茜	白血球、赤血球、血小板、マクロファージ・・・人間の細胞の数、およそ60兆個！彼らは皆、体の中で休むことなく働いている！体内に入ってきた細菌、ウイルス、異物には徹底抗戦！そこには細胞たちの知られざるドラマがあった！
ざんねんないきもの事典	今泉 忠明	ざんねんないきものとは一生けんめいなのに、どこかざんねんないきもの達のことである。「ざんねんないきもの事典」シリーズは、生き物に少しでも興味と愛情をもっていただければと、あえて「ざんねん」という言葉を使って、これまでの本ではあまり語られてこなかった生き物の”意外な一面”を紹介しています。

部活動の活動時間

11月11日～1月20日 **17:30まで**